



「身体保守主義の可能性 ～トランスヒューマニズムの倫理学～」

日時：2019年10月15日（火）13:10～14:40

場所：同志社大学 今出川校地 寒梅館2階 KMB212

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/muromachi.html>

第1部：本田 康二郎 准教授

（金沢医科大学 一般教育機構/ ITEC共同研究員）による講演

人型ロボット技術の発展と、BMI（ブレイン・マシン・インターフェイス）技術の発展の行きつく先には、身体機能の一部を機械に代替させる道が拓けている。そして、バイオ・ナノ・ロボットの各技術や人工知能技術を駆使して身体をアップグレードすることを推奨する「トランスヒューマニズム」の考え方が、技術発展の進捗に合わせるように、じわじわと日本にも影響を与え始めている。このような中で、我々は身体を自由に改造するような社会を目指すべきなのか、議論する時期にきたのかもかもしれない。本講演では、身体改造に対して保守的な立場をとりながら、身体改造が内包するリスクについて、現象学的な知見に基づいて検討してみたい。

第2部：本田 康二郎 准教授

瓜生原 葉子 准教授（同志社大学 商学部/ ITEC兼任研究員）

田口 聡志 教授（同志社大学 商学部/ ITECディレクター）による対談

本田 康二郎 准教授 プロフィール：

【学歴】東京農工大学工学部卒。東京農工大学大学院生物システム応用科学研究科修了（修士（学術））。北海道大学文学部卒。北海道大学大学院文学研究科思想文化学専攻博士後期課程単位取得退学（修士（文学））。

【職歴】金沢工業大学講師（技術者倫理）、同志社大学講師（ライティング）、同志社ITECリサーチコーディネーター（科学技術政策）を経て、現在金沢医科大学准教授（医療倫理、ライティング）。

専門分野は技術哲学、科学技術倫理。2011年に「ロボット応用哲学会」の創設に関わり、ロボット倫理学や人工知能の倫理学の研究を開始する。現在の主な研究関心は、人体改造とトランスヒューマニズムの哲学と倫理学である。技術の倫理と医療の倫理がコンフリクトを起こしつつある現在、人体改造をどこまで受け入れるかについて検討している。



瓜生原 葉子 准教授 プロフィール：

同志社大学商学部 准教授（京都大学大学院医学研究科，京都府立医科大学 非常勤講師）。日本学術会議 連携会員，公益社団法人日本臓器移植ネットワーク理事，EURAM(欧州経営学会)理事・日本代表を兼務。専門領域は、戦略マネジメント，組織行動論，ソーシャルマーケティング，移植医療の社会的価値の普及と社会基盤の確立。



参加費無料

同志社大学 技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）

TEL：075-251-3779

E-mail：rc-itec@mail.doshisha.ac.jp

ITEC

Institute for Technology,
Enterprise and Competitiveness